

欧州紀行(8) スタバンガー寄港

2023-6-21 池田良穂

スタバンガーは、ベルゲンとオスロの間に位置し、北海に面したノルウェーの北海油田の基地であり、造船業も盛んな街です。

フィヨルドクルーズを終えた「アンセム・オブ・ザ・シーズ」は、一路、南下してスタバンカーを目指しました。スタバンガーとノルウェー北部を結ぶ幹線道路 E39 は、途中が海で途切れており、そこを 4 隻のカーフェリーがピストン輸送をしています。そのフェリーを遠望した所で、「アンセム」は右に針路を変えてスタバンガーの港へと入りました。港の入口の岸壁には海底油田基地への物資補給をするサプライボートが並び、港内の造船所では油を貯めて積み出すための巨大な箱型浮体 FPSO がドック内に見えました。

船は、町の中心にある旧港の入口付近の岸壁に停泊しました。このクルーズ客船用の岸壁も、旧港内の細い岸壁が確保されただけの簡易的な施設でした。クルーズの発着港にはなにくく、寄港港としてのみ機能するノルウェーの港としては、大きな投資なしに、なんとかして大型クルーズ客船の寄港を誘致しようと知恵を絞っていることがよくわかりました。徒歩で旧市街に繰り出した乗客は、レストランやパブで憩い、パワーボートに乗ったり、フィヨルドクルーズの小型観光船に乗ったり、街中を巡るバスで廻るなど、思い思いの観光をしています。ノルウェー土産を置く店も、クルーズ岸壁の近くに数軒ありました。船のオプションツアーのバスは 10 台くらいだったので、4200 人余りの乗客のうち 10%程度が利用しているだけのようでした。

港の一面には、オイル博物館があり、北海の海底油田掘削に使われる機器の一部の野外展示もされていました。これを見ながら、現役時代に海洋開発の研究もしていたことを少しだけ思い出しました。

港は、デイクルーズ客船、漁船、パワーボート、そしてフィヨルド内の近隣の町とをつなぐカーフェリーと高速旅客船が頻繁に出入りしていて、船ファンにとっては飽きない楽しい港でした。



スタバンガー港に入る前に遠望できたフェリー。4 隻がピストン輸送しているようだった。フィヨルド地形が多いノルウェーでは、こうした短距離カーフェリーが数多く運航されており、LNG フェリーの発祥の地もノルウェーでした。



入港直前に反航した 2 隻の小型船。上は作業船、下は貨物船のように見えます。下の写真の船の船側には天然ガス燃料であることをアピールした文字が書かれています。



港内に並んでいた海底油田生産施設へ物資を届けるサプライボート群です。



修理中らしきカーフェリーです。



修理中らしき小型カーフェリーです。一世代前のような感じもしますので、引退して係船されているのかもしれませんが。



造船所のドックには海底油田で生産された石油を洋上で備蓄およびシャトルタンカーへ積み出す USPO の姿がありました。



旧港にアプローチする「アンセム・オブ・ザ・シーズ」の上からの景色です。正面に見える小さな入り江が旧港です。



旧港の全景です。右に簡易的なクルーズ客船埠頭が見え、「アンセム・オブ・ザ・シーズ」は、ここに着岸しました。ターミナルビルはなく、金網で囲っただけのスペースです。出入国・税関の検査はなく、乗下船の管理は船側のクルーズカードを船内舷門でスキャンするだけでした。





デイクルーズ客船「サンドネス」が停泊していました。昔の関西汽船を思い起こされる色とクラシックなスタイルが素晴らしい!!



「サンドネス」の船齢は、筆者と同じ 73 歳とわかり、親近感が増しました。





スタバンガーの中心と近郊の町とを結ぶ高速旅客船です。船首に旅客の乗下船用のタラップを有しています。



スタバンガーの中心と近郊の町とを結ぶ小型カーフェリーです。



旧港を発着して、フィヨルド内のクルーズを行う高速観光船です。



フィヨルド観光船には、「アンセム」の乗客がたくさん乗船しているようでした。大型クルーズ客船の経済効果はなかなかのものようでした。